

荷下ろし場を拡張整備 真岡のアムテック



アムテックが整備した広い荷下ろし場＝真岡市

運転手の待ち時間短縮へ

アルミリサイクル業のアムテック(真岡市鬼怒ヶ丘、佐野雅治社長)は21日までに、本社工場に納入するトラック用に広い荷下ろし場を整備した。トラックの運転手不足によって運送が滞る「2024年問題」に対応し、待ち時間を短縮するのが狙い。

同社は日清鋼業(神戸市)のグループ会社で、使用済みのアルミ缶を納入して溶解炉で溶かし、再びアルミ缶の原料にする事業を展開

する。以前はアルミ缶のスクラップ置き場を兼ねた荷下ろし場しか無かったため、トラック1台ずつしか荷下ろしができず、2時間程待たなければならぬドライバーもいた。

こうした状況を改善しようと、昨年4月に始まった新事務所の建設に併せて約1千平方メートルの荷下ろし場を整備した。6月から本格稼働し、最大で同時に3台の荷下ろしが可能になった。荷物量を考慮しながら順番

を入れ替えるなど運用も直し、待ち時間を4分の1程度に短縮したという。前田健吾取締役(49)は「運送業者からも好評を得ている。これで終わりではなく、今後も物流改善を続けていく」と話した。

(上野貴朗)